

地域資源活用

④みせるばやお

「まちの井戸端会議から生まれる共創イノベーション～誰もがいつでも気軽にクリエイティブを！～」(2021年優秀賞)

受賞理由：大阪府八尾（やお）市は、中小製造事業者約3千社が集積する「ものづくりのまち」であるが、他都市と同様、近年は廃業する企業が多い。2018年、地域の中小企業を中心に大企業、大学、金融機関等からなる共同事業体として、自慢できるまち、誇りに思えるまちを目指し、「みせるばやお」が設立された。「みせるば」とは、「見せる場」であり「魅せる場」である。会員企業同士のコラボレーション企画・商品の開発、市内企業の技術や商品を活用した子ども向けワークショップの開催、会員企業間の交流等を実施している。拠点施設の空間、顧客情報、会員企業の人材などのシェアリングやビッグデータの活用も参加企業と連携実施し、イノベーションを推進している。企業間や地域住民との交流を新規に生み出すことで、会員の約3割が八尾以外の企業であるなど、地域・業種を超えた広域の「共創」コミュニティとなっている。

(実施者)

みせるばやお（任意団体）

(事業の背景及び経緯)

八尾市は中小製造事業者約3000社が集積する「ものづくりのまち」だが、近年は廃業する企業も多く、まちの危機に瀕していた。平成30年に、地域の中小企業を中心に、大企業、大学、金融機関等からなる共同事業体として、「みせるばやお」を設立。まちのアイデンティティを次世代の子どもたちに継承すべく、人々にまちの面白さや良さを「魅せる場」を近鉄八尾駅前に設置し、ものづくりの楽しさを伝えるワークショップを実施するほか、空間、データ、ヒトのシェアリングプラットフォームを構築するなど、地域の中小企業の活性化、ひいては地方創生に資する取組を実施している。

(事業内容)

会員企業同士のコラボレーション企画・商品を開発するために、市内企業の技術や商品を活用した子ども向けワークショップの開催、会員企業間の交流等を実施。ワークショップはこれまでに664回を超え、子どもから大人まで累計5万人が来場した。産業集積地という特性を活かし、拠点施設の空間、顧客情報、会員企業の人材などのシェアリングを実施しているほか、ビッグデータの活用も中小企業と連携して実施。企業間や地域住民との交流を新規に生み出すことで、業種を超えたイノベーションを創出する仕組みづくりを目指す。

設立当初は35社だった会員は現在120社に増加。積極的に視察等に見学者を受け入れることで、東北、東京、近隣の市町村の企業など、会員の約3割が八尾以外の企業である広域の共創コミュニティとなっている。

(成果)

活動一年目から3年間で88個の会員同士のコラボレーションを生むことをめざし、現在、72個まで発展している。中には、市場に販売し、定番商品になったものも存在し、今後、みせるばやおブランドとして商品開発を視野にみせるばやお内にアンテナショップを併設し、2020年度にはオン

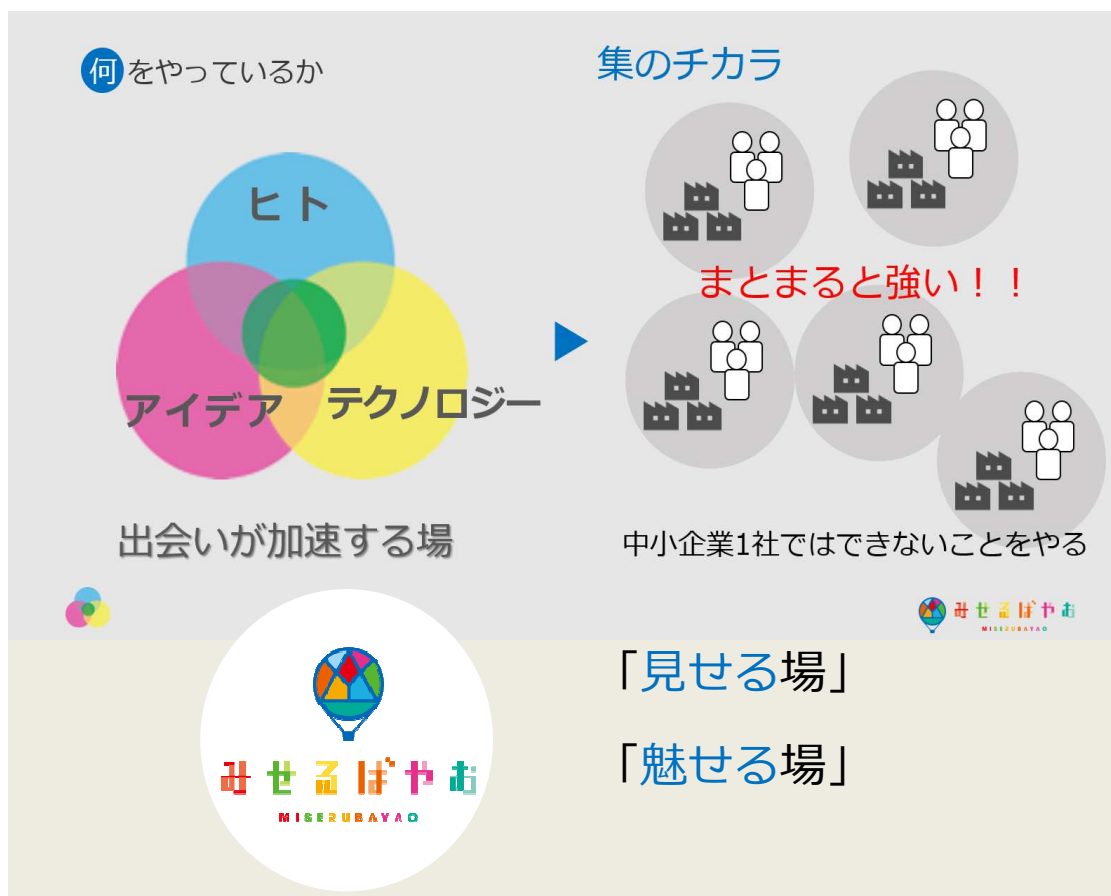
ラインショップを開設するなど、製品の発信だけにとどまらず、テストマーケティングや販売促進の支援をはじめ、今までに新聞やTVメディアなどへの掲載が約100回（新聞70回、TV番組20回）を超える実績を生かし、広報戦略のサテライトを担っている。また行政視察や各種経済団体からの視察も約70件ほどあり、他地域への活動発信拠点としての役割を担っている。

（事業に取り組んで苦労したこと）

設立までの間、様々な思惑や企業間の意識のギャップなどがあり、ビジョンを創る過程で「共通言語づくり」に苦労した。ビジョンの共有やみせるばやおらしさを追求するところに時間を要したが、今はその多様性が活かされ、一人ひとりがみせるばやおの活動を支える中心メンバーになり、自分たちがみせるばやおを良くしていくんだという想いも会員企業から多く感じて取れるようになった。

（事業の成功要因）

とにかくやってみるをモットーに、会員企業の発案ではじめたプロジェクトを試行錯誤しながら、実施してきたことにより、自律したメンバーが増えてきている。今では、1ヶ月に一度の定例ミーティングでプロジェクト発表や会員が自ら立ち上げた新規プロジェクトの仲間募集、ブレインストーミングに至るまで、自主性を持って実施され、プロジェクトのリーダー会を発足し、さらなる活動の発展に向け、切磋琢磨している。当初からルールをあまりガチガチに作らず、参加も自主性を重じているため、それぞれの会員が活動をタスクと捉えず、自分事のように活動を支え、たくさんの方にその活動の良さを発信していただいている。



受賞後の取組（活動）について

働く人や住む人まちを好きにする・ミッション・共感・共創・共闘しながらワクワクするコト、モノを創り、発信することを掲げ受賞後も活動しています。

【2021年～2022年】

参画企業118社 ものづくり等体験ワークショップ160回
SHOP出店26社・コラボ数25プロジェクト・法人向け事業267回ビジター会員
11835名 来場者8134名 前年度115%達成しました。

【みせるばやおが目指すSDGsの取組】

市民向けワークショップの開催やオープンファクトリー、ものづくり企業が自社の強みを認識し、世の中へ広く認知させる仕組み「**イノベーション・エコシステム**」の開発などに着手。

目指すカタチは、SDGsの目標と同じ。今後も社会と企業の持続的発展と課題の解決に貢献しながら**SDGsの達成に挑戦**し続ける。

【全国からの視察受入】

「三宅町役場の視察」

奈良県磯城郡にある野球グローブ町で有名な三宅町役場とグローブ事業者様が視察。

【近畿経済産業局長の視察】

伊吹経済産業局長がみせるばやおと八尾市内の会員企業を視察。

みせるばやおの成り立ちや取り組みを説明、みせるばマルシェでは商品を見て触って知っていただきました。

【子供向けワークショップの開催】

コロナ禍の中でも**子供向けワークショップ**を160回開催。

【企業間コラボレーション】

★大一創芸、オーツー、カネエム工業、赤坂金型彫刻所、谷元フスマ工飾による
コラボワークショップの実施

★シャープ、ゆうき農園、錦城護謨、平井製作所、和田萬による
コラボイベントの実施

★錦城護謨、タカヨシジャパンによるコラボワークショップの実施

【学生向け事業】

株式会社MIMA 美馬社長による中学生160人にむけた講演

「**あなたの未来の仕事が人を幸せにする**」

「**相乗効果がある学生とのコラボレーション**」

近畿大学文能ゼミに所属する学生と会員企業9社がコラボレーションし
ワークショップを開催。

【デジタル活用して継ぐ街の歴史や魅力】

文部科学省の取り組みの「**ギガスクール構想**」。八尾市では歴史やものづくり企の
取り組みが伝わる動画を作成。